

聖霊院

聖霊院は、法隆寺の創建者として尊敬を集める聖徳太子（574～622 年）の尊像をお祀りする建物である。その名前は、文字通り「聖なる霊の寺院」であり、聖徳太子の魂が納められている場所であるということを示唆している。聖霊院は、南北に細長い建物の南側の 3 分の 1 を 1121 年に改造した建物で僧侶の住居として建てられた。建物の後方の 3 分の 2 は今なお僧房としての面影を残している。

この聖霊院には、1121 年に造顕された聖徳太子像および侍者像ならびに、如意輪観音と地藏菩薩像が安置されている。

聖徳太子を神格化して信仰の対象とすることが最も盛んになった鎌倉時代（1185～1333 年）には、多くの彫像や肖像画が造顕されている。聖霊院は通常は一般公開されていないが、法隆寺では毎年 3 月 22 日聖徳太子のご命日に、聖徳太子を偲んで法要が営まれ閉ざされていた扉が開かれる。